

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-92567

(43) 公開日 平成6年(1994)4月5日

(51) Int.Cl.⁵

B 6 6 B 5/02
H 0 2 J 9/02

識別記号

庁内整理番号
H 7814-3F
Z 4235-5G

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21) 出願番号

特願平4-244848

(22) 出願日

平成4年(1992)9月14日

(71) 出願人 000236056

三菱電機ビルテクノサービス株式会社
東京都千代田区大手町2丁目6番2号

(72) 発明者 藤井 正典

東京都千代田区大手町二丁目6番2号 三
菱電機ビルテクノサービス株式会社内

(74) 代理人 弁理士 曾我 道照 (外6名)

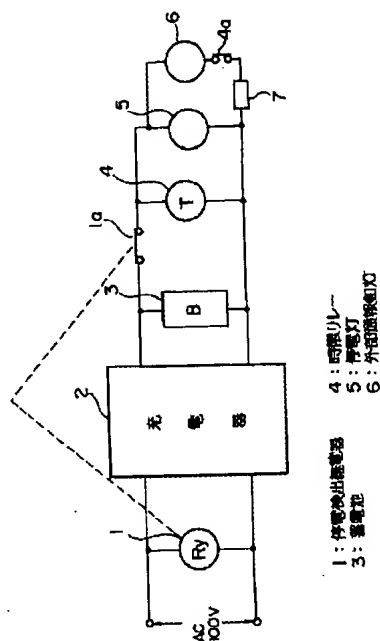
(54) 【発明の名称】 停電灯装置

(57) 【要約】

【目的】 停電等によるかご内照明不点の際、停電灯5と共に点灯する非常用インターホンを得ることを目的とする。

【構成】 かご内の操作盤内の非常用インターホンに組み込まれたランプ(外部通報灯)6を1分間程度点灯させる時限リレー4などから構成されている。

【効果】 停電等によるかご内照明不点時に1ルクス程度の停電灯5と共に、非常用インターホンの外部通報灯6を点灯でき、速やかに外部との連絡が取れ、缶詰状態の乗客の救出を早めることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 停電が発生するとそれを検出して非常用照明電源装置により停電灯を点灯する停電灯装置において、停電が発生した場合は前記非常用照明電源装置により一定時間だけ外部通報灯を点灯する付加照明手段を備えたことを特徴とする停電灯装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、停電時のエレベーターにおいて、かご内照明用電源が断たれ、照明が消灯（不点）となり、乗客がかご内に閉じ込められた時、非常用インターホンなどの外部通報灯を点灯する停電灯装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】停電灯装置の標準は、J E A S - 5 0 1（標準46-6）で定められている。従来の停電灯装置の構成を図3を参照しながら説明する。図3は、従来の停電灯装置を示す図である。

【0003】図3において、1は停電検出継電器（Ry）、2は充電器、3は蓄電池（B）、5は停電灯である。なお、1aは停電検出継電器1の接点（常閉）である。

【0004】つぎに、前述した従来の停電灯装置の動作を説明する。停電が発生すると、停電検出継電器1はドロップアウトする。このため、停電検出継電器1の接点1aは接触し、蓄電池3と停電灯5の回路を形成して停電灯5が点灯される。

【0005】しかし、点灯した停電灯5は非常に暗い（法律上では、1ルクス（lx）以上であればよい。）外部通報用灯（図示せず）は点灯しないので、乗客はこの停電灯5の明かりによって判断し、外部通報用灯を探して押すことにより外部へ通報することになる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】上述したような従来の停電灯装置では、何等かの事故による停電時において、エレベーターのかご内に缶詰状態となった乗客が外部へ通報する際、停電灯5の1ルクス程度の照明下では外部通報用灯を探すのに時間を要するという問題点があった。

【0007】この発明は、前述した問題点を解決するためになされたもので、停電等による缶詰発生時に停電灯と共に、新たに外部通報灯を点灯することができる停電灯装置を得ることを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】この発明は、停電が発生するとそれを検出して非常用照明電源装置により停電灯を点灯する停電灯装置において、次に掲げる手段を備えたものである。

（1） 停電が発生した場合は前記非常用照明電源装置

により一定時間だけ外部通報灯を点灯する付加照明手段。

【0009】

【作用】この発明に係る停電灯装置においては、付加照明手段によって、停電が発生した場合は前記非常用照明電源装置により一定時間だけ外部通報灯が点灯される。

【0010】

【実施例】

10 実施例1. この発明の実施例1の構成を図1及び図2を参照しながら説明する。図1は、この発明の実施例1を示す図であり、停電検出継電器1～蓄電池3及び停電灯5は上述した従来装置のものと同様である。なお、各図中、同一符号は同一又は相当部分を示す。

【0011】図1において、4は時限リレー（T）、6は非常用インターホンの内部に設けられたランプ等の外部通報灯、7は電圧調整用の抵抗である。なお、4aは時限リレー4の接点である。外部通報灯6は、時限リレー4の接点4aを介して蓄電池3との回路を形成している。

【0012】図2は、この発明の実施例1における非常用インターホンの内部に設けられた外部通報灯6を示す図である。同図（a）は非常用インターホンの正面を示す図、同図（b）は非常用インターホンの断面を示す図、同図（c）は外部通報灯6の断面を示す図である。

【0013】ところで、この発明に係る付加照明手段は、前述したこの発明の実施例1では蓄電池3、時限リレー4、その接点4a、外部通報灯6及び抵抗7から構成されている。

【0014】つぎに、前述した実施例1の動作を説明する。停電が発生すると、停電検出継電器1がドロップアウトし、停電検出継電器1の接点1aにより、蓄電池3と停電灯5の停電灯回路が形成されて停電灯5が点灯される。

【0015】あわせて、新たに停電灯5と並列して設けられた外部通報灯6も点灯される。なお、蓄電池3の消耗を防ぐために設けられた時限リレー4が一定時間（例えば、1分間）後ドロップアウトし、時限リレー4及び接点4aが切れて外部通報灯6が消灯される。

【0016】外部通報灯6の点灯時間は、非常用インターホンを押すまでに必要な十分な時間、例えば1分間程度の照明時間にするので、従来のかご室内の照明時間を減少させるおそれはない。

【0017】この発明の実施例1は、前述したように、停電等によるかご内照明不点の際、停電灯5と共に点灯する非常用インターホンを得ることを目的とする。かご内の操作盤内の非常用インターホンに組み込まれたランプ（外部通報灯）6を1分間程度点灯させる時限リレー4などから構成されているので、停電等によるかご内

3

照明不点時に1ルクス程度の停電灯5と共に、非常用インターホンの外部通報灯6を点灯でき、速やかに外部との連絡が取れ、缶詰状態の乗客の救出を早めることができるという効果を奏する。

【0018】実施例2. なお、前述した実施例1では外部通報灯6を単に点灯したが、点滅させるようにしても同様の動作を期待できる。

【0019】実施例3. また、前述した実施例1では外部通報灯6を通常の色ランプとして説明したが、目立ち易い色としても所期の目的を達成し得ることはいうまでもない。

【0020】

【発明の効果】この発明は、以上説明したとおり、停電が発生するとそれを検出して非常用照明電源装置により停電灯を点灯する停電灯装置において、停電が発生した場合は前記非常用照明電源装置により一定時間だけ外部

4

通報灯を点灯する付加照明手段を備えたので、停電等による缶詰発生時に停電灯と共に、新たに外部通報灯を点灯することができるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施例1の構成を示す図である。

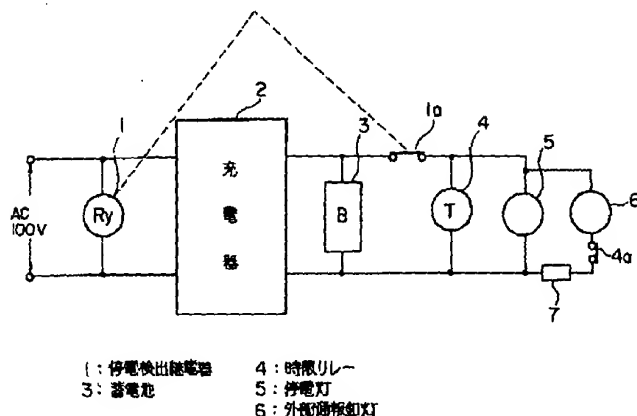
【図2】この発明の実施例1の外部通報灯を示す図である。

【図3】従来の停電灯装置の構成を示す図である。

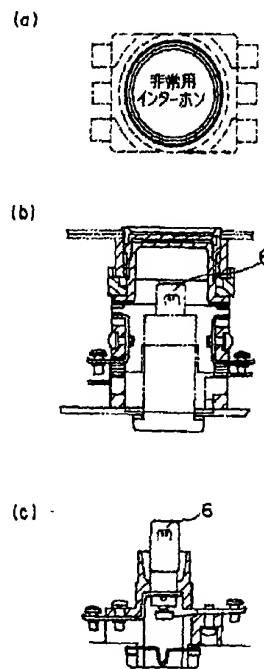
【符号の説明】

- 1 停電検出継電器
- 2 充電器
- 3 蓄電池
- 4 時限リレー
- 5 停電灯
- 6 外部通報灯

【図1】



【図2】



【図3】

